

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:6~8.

人工股関節置換術患者の退院指導—視てわかる生活調整—

原谷俊治、大坪恵美、佐藤菜穂美、杉本沙織、外川恵子

人工股関節置換術患者の退院指導

－視てわかる生活調整－

8階西ナーステーション ○原谷 俊治、大坪 恵美、佐藤菜穂美、杉本 沙織、外川 恵子

キーワード：THA 患者、教育ツール、退院指導

はじめに

A 病棟では、人工股関節置換術患者（以下、THA 患者と略す）の退院指導に、術前オリエンテーション VTR を用いた転倒・脱臼予防のための ADL を言語・行動化できる教育介入を行い、過去 1 年間における転倒と脱臼による再入院率は 0% であった。しかし、退院後 2 週目の生活に患者は困難感を感じているという先行研究¹⁾もあり、入院中の患者にも「日常の動きの中でこんなに制限があるなんて」という言葉が聞かれた。そこで今回、従来の退院指導で用いた生活調整に関するパンフレットを基に退院指導用 DVD（以下 DVD と略す）を作成し、教育ツールとして加えることで患者がより具体的な生活調整を行うことができたため報告する。

I. 研究目的

THA 患者の退院指導教育ツールに DVD を用いることで、患者自身が生活調整を具体的に考えることができる。

II. 用語の定義

1. THA の脱臼予防行動…股関節の過屈曲、内転、内旋を避けること。
2. 生活調整…患者が自己の役割に要するすべての動作に転倒脱臼予防を関連付け、生活環境を工夫すること。

III. 研究方法

1. 研究期間：平成 20 年 6 月～10 月
2. 研究対象：THA 患者 5 名（救急外傷を除く）
3. 研究方法

1) DVD 作成

THA 患者が退院後の生活に困難と感ずる内容、転倒と脱臼を予防する内容を抽出し、家事（調理・食事運搬・部屋掃除・浴槽掃除・トイレ掃除・洗濯・洗濯物干す・庭の手入れ）、外出（車乗降・車の運転・買い物）、趣味（旅行イベント・運動）、物品の配置、家具の選択、緊急時の対応（脱臼時・転倒時・受診の時期）に関する 18 項目で構成された 20 分の DVD を作成する。内容に関しては医師、理学療法

士と検討した。DVD 視聴は、歩行器歩行が自立した時期とした。

2) 質問紙作成

1) の DVD 作成に用いた 18 項目の理解度を測定するために独自の質問紙を作成した。18 項目に対して「イメージできた」4 点から「全くイメージできなかった」1 点の 4 段階尺度の記名式質問紙である。

3) 調査方法

- ①看護記録から、対象者の年齢、職業、手術目的および術前オリエンテーション VTR 視聴後（以下、DVD 視聴前とする）の対象者の退院調整に関する主観的情報を得た。
- ② DVD 視聴前と DVD 視聴後の 2 回、研究承諾の得られた対象者に質問紙を配布し、回答後は研究者が直接対象者のもとへ訪問し質問紙を回収した。なお、前後比較のため、対象者に番号を付した。
- ③ DVD 視聴後の質問紙回収後、研究者が質問紙の 18 項目に対し対象者がどのように工夫しようと考えているか 30 分聞き取り調査を実施した。

4. 分析方法

質問紙の得点を項目別、総合点ごとに単純集計し、DVD 視聴前後の理解度を比較する。また、看護記録および聞き取り調査から得られたデータは、生活調整について語られている語句を抽出し、同じ意味内容の語句を集めてカテゴリー化した。

IV. 倫理的配慮

対象者には、研究の目的、質問紙は無記名で行い、個人が特定できないようにすること、得られたデータは研究以外では使用しないこと、途中で参加を取りやめることができ、調査結果によって不利益が生じないことを口頭と書面にて説明し、同意を得られた患者に調査を実施した。質問用紙は研究者のみで扱い、終了後には破棄した。

V. 結果

1. 対象の属性

対象者は、男性2名女性3名の5名であり、平均年齢63.6歳であった。

2. DVD 視聴前後の理解度

DVD 視聴前後における患者別の生活調整の理解度(図1)は、総合点の平均点ではDVD 視聴前が42点、DVD 視聴後が64点と、全事例において得点が上がった。項目別(図2)においても、全項目でDVD 視聴後に得点が下がったものはなかった。

性別で見ると、総合点の平均点では、女性群はDVD 視聴前が46点、DVD 視聴後が65点で、男性群はDVD 視聴前が21点、DVD 視聴後が63点であった。

項目別では、女性群は、視聴後は全ての項目で平均点が高くなった。特に「調理」「食事運搬」「部屋掃除」「浴槽掃除」「トイレ掃除」「洗濯」「洗濯物干す」の項目では、視聴前の値から比べ、得点の伸びが高かった。男性群においても全ての項目で平均点が高くなった。特に「車乗降」「運動」の項目で、視聴前の値から比べ、得点の伸びが高かった。

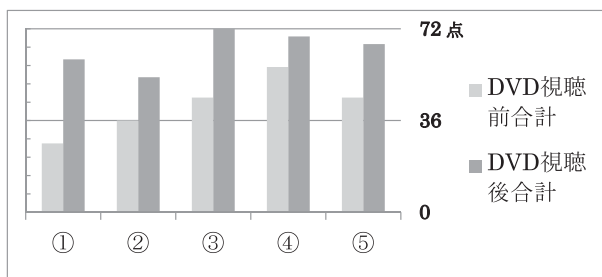


図1 DVD 視聴前後における患者別生活調整理解度の総合点

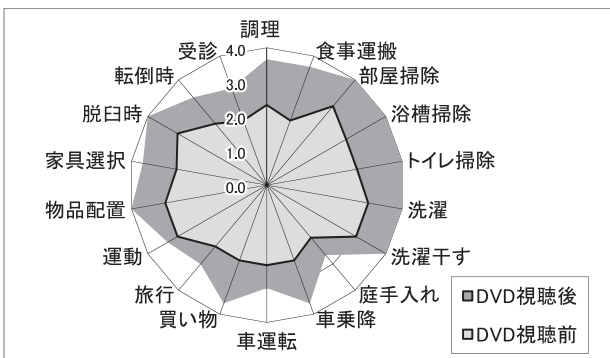


図2 DVD 視聴前後の女性の項目別生活調整理解度の平均値(n=3)

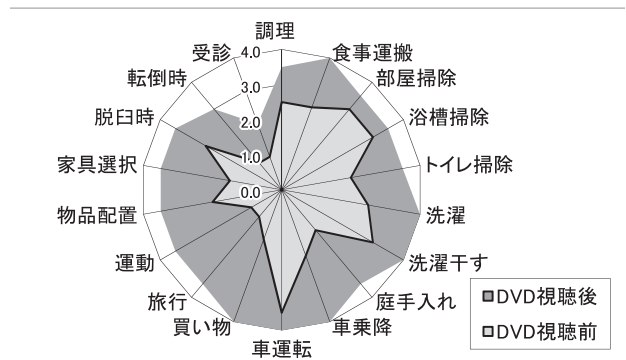


図3 DVD 視聴前後の男性の項目別生活調整理解度の平均値(n=2)

3. DVD 視聴前後における患者の生活調整に対する意識

生活調整に対する患者の意識として、DVD 視聴前には全事例に「退院後の生活が具体的に考えられない」「一人では活動ができない」「家具配置の検討が必要」があった。

DVD 視聴後は、「具体的に考えることができる」「退院後の生活に対する不安の消失」「自信を持って退院できる」「退院しても何とかできそうだ」と変化した。

女性群では、DVD 視聴前に「家事動作の疑問」があげられていたが、DVD 視聴後には「家事動作の獲得」に変化した。男性群では、DVD 視聴前は「車の乗降りの疑問」「趣味やスポーツ動作の疑問」があったが視聴後には、「車の乗降りの獲得」「趣味動作の獲得」に変化した。

4. DVD 視聴時期

手術前の視聴を希望する対象からは「手術前にDVDを見ていたら、事前に自宅の準備ができた。」「手術後のイメージがついて、手術への不安が減っていた。」という声や「仕事の調整をしないといけないので、手術をするかどうかの判断基準として使いたい。」「手術後は痛みもあり、見てもすぐ忘れるので、元気なうちに見たい。」という声がきかれた。手術前に視聴を希望する対象者は、職業の継続や今後積極的な活動を考えていた。また、2本杖歩行開始時での視聴を希望する対象者からは「2本杖になって自分のことを色々できるようになってから自宅のことを考え始めるため、それまでは歩く練習に専念したい。」「手術後の体調が良くなった時期がよい。」という意見が聞かれた。手術後の視聴を希望する対象者は、除痛でき必要最低限の生活ができれば良いと考えていた。

VI. 考察

退院指導に DVD を加える事で、対象者からは「調味料の置き場所を考えたほうがいいですね。」「掃除の時はモップを使うといいんだね。」などの言葉が聞かれた。映像メディアの特性として、経験不可能な事象や未経験の事象、言語的説明では理解しにくい事象への理解を助ける²⁾とされているように、本研究においても居住空間や日常生活で必要となる動作を実際に使用する物品を用いながら一連の流れを再現することで、対象者は具体的に自己の生活を振り返ることができ、質問紙の得点が向上したと考える。また、退院間近の患者からは、「退院しても何とかできそうだな。」との言葉もあり、患者の退院に対する困難感を軽減できたと考える。

質問紙や聞き取り調査より、女性群において DVD 視聴後に「家事動作」の項目で得点、関心が高く、男性群において「車の乗降り」「運動」の項目で得点、関心が高かったことは、それぞれの役割に家事役割や仕事上車の乗降りが必要であり、今後も継続したい趣味があったことから、これらの項目に対する関心が元々高く生活調整を具体的に考えやすかったと考える。このように対象者の担う役割や生活環境、生活様式により関心の持つ項目や獲得したい ADL は異なるため、入院時より患者が関心を持っていること、役割、生活環境、生活様式を情報収集し、生活に必要な項目に重点をおいて退院指導を行っていく必要がある。

今回私達は、DVD を視聴する時期として、術後に対象者自身が身の回りのことを行えるようになり退院に意識が向く歩行器歩行が自立した時期が適切であると考え介入した。しかし、実際には術前に視聴を希望している群と術後に視聴を希望している群があった。術前に視聴を希望している群は、手術後も積極的な活動や職業の継続を考えており、早い段階から生活調整を希望している。

そのため、術前より DVD を視聴することは、手術を選択するための材料となったり、術後の生活環境を整えたり、仕事の調整を行うことができるようになるため、より効果的だと考える。逆に、術後に視聴を希望している群は、術前から積極的な生活調整は希望していない。そのため、術直後、床上動作練習、歩行練習と行動拡大していく中で、患者の意識が退院に向けた時期を見極め、DVD 視聴を促すことが必要だと考える。

VI. 結論

1. 従来の指導に、映像化した教育ツールを用い、視覚的に訴えることで、患者は生活調整を具体化することができた。
2. 患者の担っている役割によって関心を持つ項目は異なるため、患者が必要としている知識や動作を入院時から確認し退院指導を行っていく必要がある。
3. 院指導 DVD 視聴時期に関しては個人差があり、指導時期は本人と相談して決定する必要がある。

おわりに

本研究の限界として、対象者数が少ないためこの結果が全てとは言いきれない、今後も対象者数を増やしていきたい、DVD の効果について検討していきたい。

参考・引用文献

- 1) 横路聖加：股関節疾患手術患者の退院後 2 週間目における日常生活調査，日本看護学会論文集，成人看護 II，37 号，121-123，2006.
- 2) 佐賀啓男：視聴覚メディアと教育，樹村房，118-126，2002